

時局日誌（十四）

Y 生

九月十三日 日本產金振興株式會社法ノ施

行ニ關スル件（勅令第六四〇號）公布

我が陸の荒鷲田中部隊水谷中尉の指揮する〇〇機は十三日午前十時頃惡天候を克服して大別山々脈の南麓麻城を空襲、敵の虛を衝いて同城外南端で荷揚中の兵站船百五十隻及び敵兵を満載する貨物自動車數十輛を發見これに巨弾を浴せ完膚なきまでに粉砕し無事歸還した。

西澤部隊清水中尉は同時刻頃光州を襲撃、城内に密集中であつた敵軍約二個師を認め敢然急降下これを爆轟掃射、乾田尾軍曹機も四時頃光州北方八キロ黄河沿ひの鄧宗店部落を急襲、同部落の敵陣及

び附近にあつた敵船十數隻を爆撃多大の効果を收めた。

海軍航空隊は十三日朝三時に亘り長驅廣西省を襲ひ柳州並に懷集の兩市に巨彈の雨を降らせ敵の諸軍事施設に多大の損害を與へた、尙柳州においては邀撃する敵との間に壯烈なる大空中戦を演じた。

九月十四日 午前十時三十分永井部隊及び海軍陸戰隊士師部隊は軍艦旗と日章旗と共にいためかせて九江西方揚子江南岸の要衝馬頭鎮を占領した、之により漢口までの距離は四十里を残すばかりとなつた去月末瑞昌攻略の猛撃に呼應して揚子江岸を進撃した永井部隊は八月二十三日馬

頭鎮下流一里の右岸にそびゆる烏龜山に敵の八十一師を擊破して占領、更に破竹の勢ひをもつて南方部隊と呼應して西進去月三十日海軍陸戰隊の精銳の上陸と共にこれと協力、更に湖航艦隊の應援を得て十三日には倪灣舖を奪取、洪河の勢ひをもつて總攻撃を開始した、長江南岸の山嶽地帶を猛追、敵の退路を遮断して奮戰中の石本、平田、中島、吉澤各部隊と巧に連繫を保ちつゝダリダリ肉薄した永井部隊は十四日拂曉を期して最後の猛攻撃を敢行、午前九時三十分宋村赤石港附近の長江堤防決潰の浸水地帯を形突破しそれより海軍陸戰隊は海軍旗を朝風に

はためかせつゝ長江南岸より百二十六高地を永井部隊は日章旗を先頭に押立てゝ文字通り十字砲火をくゞつて遼寧無二突進、忽ち〇〇山の堅陣を奪取、斯くて午前十時三十分永井部隊の一部及び陸戦隊土師部隊の一部は相共に馬頭鎮に突入敵要塞に日章旗と海軍旗を翻しこゝに陸海共同作戦の實を結んだ。

海軍空襲の活躍一、地上部隊の作戦に協力せる攻撃隊〇〇機は廣濟西方地區及び武穴西北方地區一帯に亘る陸軍部隊前面の敵集部隊及び野砲陣地上空に亂舞し所在の敵の爆撃、これを潰滅又は敗走せしめ偉功を奏し全機無事基地に着けり。

二、菅久少佐指揮の攻撃隊は河南省羅山率ゐる商城攻撃隊は全市街に羽がる敵砲集部隊を襲撃しこれに潰滅的打撃を與へ全機無事歸還せり。

井口大尉指揮の〇〇機及び後續隊〇〇機は銀翼をつらねて長驅柳州飛行場を急襲、折柄上空に在りし敵戦闘機四機を認め勇敢これに挑戦しその二機を確實に撃墜し他の一機をして北方に敗走せしめたり、尙地上に在りし小型機六機その他十數機の大形機を爆破粉碎し格納庫群數棟中一部を炎上他を大破せしめ敵の心臓を寒からしめたり地上砲火を認めず全機悠々歸還せり。午前九時商城東方家集を占領した。

又快速部隊を中心にして後續部隊も續々として西方に急進撃を續け一舉に商城を突破せんとしてゐる。なほ商城北方の線を轟に西進しつゝあつた横山中川大村の各部隊は昨十三日午後五時頃樟某嶺東方四キロの羅橋附近に達し迫撃砲を有する三百の敵を攻撃瞬時にこれを撃滅し更

加藤部隊は十三日午前六時揚子江沿岸前上陸を敢行、東南に進出六キロにわたる陣地に據り長江の我船舶を砲撃し頑強に抵抗してゐた四川軍の百四十七師を撃破した、敵の遺棄死體三百四十、捕虜三十、迫撃砲一、手榴弾百餘、機關銃その他の多數を鹵獲した。

九月十五日 英國政府は十五日夜チエンバレン、ヒトラー會談にて左の如きコメントニケを發表した。

ヒトラー總統とチエンバレン首相とは意見の交換を遂げた、英國首相は明日歸英し英國の閣議に諮り二、三日中に新たな會談が行はれるであらう、次の

州商城間の諸陣地を擊破し、又淮河湖航

會合はベルヒテスガーデンにおいては行はれざるものと解する。

商城攻撃の包囲陣は刻々進められて居る、商城北方を組ぶ我が末永、加村、岡、中川、横山、大村の各部隊は十五日午前十時二十分商城北方十六キロ附近か

ら上右橋に進出更に西方に迂回して商城真下に迫つた。又我が有力部隊は十五日夕刻には光州の南北敵防禦陣地の一角たる孫營口に突入その陣地を占領し、前面僅に二キロの近距離に光州を望むに至つた。我が商城攻撃部隊の一部は十五日夕

に嘉進を續けつゝ十五日朝六時には余家を占據、更に更に敵の長江縫一の作戦根據地武穴鎮を對岸に眺めつゝ午前十時遂に曬山を完全に占領した。

瑞昌東北方赤湖に流れ込む大クリークを強行渡河して張橋に進出した石本部隊は馬頭鎮より敗走し來る敵を殲滅すべく北上し十四日馬鞍山連峰の一部純村和尚家集西方山嶺地帶攻撃に於ける戦果左の如し。敵遺棄死體四千六百三十、捕虜一百一、捕獲品迫撃砲三、重機二、輕機三十六、小銃四百九十一、彈藥その他多數

太田、西大條、森川、桑田、小池、毛利の各部隊は黃岡寺附近に一齊に兵力を集結光州總攻擊待機の姿勢にあつたが十四日來金平寺(光州東方三里)攻撃準備中の先鋒來柄部隊は激戦の後同地を占領した。馬頭鎮を占領した永井部隊は長江沿岸に嘉進を續けつゝ十五日朝六時には余家を占據、更に更に敵の長江縫一の作戦根據地武穴鎮を對岸に眺めつゝ午前十時遂に曬山を完全に占領した。

一路邁進しつゝあり、十四日中支方面に於て海軍航空隊は江上艦艇及び地上部隊の進撃に策應し左記爆擊を敢行し全機無事歸還せり。

九月十六日 快速戦車隊を先頭とする我が商城攻撃部隊は十六日拂曉を期しいくよ總攻擊の火蓋を切り、まづ戦車隊が脅威的快スピードをもつて群がる敵を蹴散らしつゝ午前八時過ぎには早くも商城の東門外に達した、北部戦線に突如男姿を現した我が戦車が隊列をそろへて城門外に肉薄すれば敵の最後的抵抗も効を奏さず城門は忽ち蹴破られて日章旗をかざした戦車群が雪崩の如く城内に突入した、

又前進十五日は栗木橋、四望山、鐵石坡沙帽鎮、陳家莊を占領した。

長江溯江部隊は數日來作戰頓に進展を遂げ空陸精銳部隊の協力により江岸の敵を制壓しつゝ機雷の突破、水中妨害物の清掃を敢行し正に武漢三鎮攻略を目指し

時まことに午前九時五分、このとき空中よ

り我が陸の荒鷲が機首を地上に向けて忽ち猛烈な對地射撃を行ひ逃げまとふ敵兵

をばたくと倒せばその間戰車隊は進撃を停止し勇士達は戰車の掩蔽蓋を開いて顔を出し荒鷲の機銃の出來榮えを見守り

「命中百パーセント」と双手をあげて合図をする、荒鷲が再び上空に旋回して行けば戰車はまた前進を開始して城内を蹂躪して行く、かくして空の荒鷲と陸の猛牛とはピッタリ呼吸を合せて商城々内を掃蕩途に午前九時半完全に商城を占領した。

光州攻擊部隊は十五日夜敵の本防禦陣地の一角孫營口を占領するや最後の攻擊態勢を整へ十六日早朝を期して總攻擊を開始した。

商城陥落と相呼應して我部隊は十六日午後八時光州城東端の一角を占領、我が軍は引續き城内に突入これを完全に占領

した。

九月十七日 商城落ち光州亦我が軍の占領する所となり江北戰線はこゝに全く第二段の本格的作戰行動に入つた、我軍は十

七日夜の豪雨を冒して猛進、潰走する敵は泥濘に悩まされ、我が軍は凱歌を挙げて勇躍進軍を開始し既に大別山を呑むの概がある、商城方面では蘇山石から西進した部隊も既に商城に入り、同部隊は十五日の戰闘のみで二百五十の敵遺棄死體と三十餘の俘虜を得、又方家集から本道上を西進した部隊は十四、五兩日の戰闘

だけで一千五百の敵遺棄死體を發見、全軍の意氣益あがつてゐる。

シユネーヴの國際會議帝國事務局は十
六日の聯盟總會に於て支那代表顧維鈞大使の行つた日本攻擊演説を反駁して十七

日要旨次の如きコンミニケを發表した
一、日本空軍の規律は極めて嚴正で一九
二三年のヘーブ空襲法規に違反するが

如き行爲を行つたことはない、これに

反し支那側は作戰行動を隠蔽するため屢々外國々旗を濫用してゐる。

一、日本空軍の爆撃目標は嚴密に敵の軍事施設に限られ、無辜の非戰闘員を爆撃した事實は無い

一、最近の張鼓峰事件の際ソヴィエト空軍は何等軍事的重要性なき滿洲國及び朝鮮の村落を爆撃したが日本軍は隱忍自重何等の報復を行はなかつたではないか、此の事實によつても日本空軍規律の嚴正さを知り得よう

一、最後に支那軍當局が作戰本部兵營及び武器製造所等の軍事的建物を人口稠密な市街地に設置し、故意に住民を空爆の危険にさらしてゐることに對し抗議せざるを得ない

九月十八日 光州に於て我に抵抗せる敵は第三十八、七十五、八十八、百八十、百八十一の各師、騎兵第九師等の聯合軍で

我が右翼正面に於ける兵力のみで約三千

を算したが其の遺棄屍體は五百五十五の

多きに上つた、又自動車二、水冷機關統

二、輕機關銃五、彈藥五十六箱、手榴彈

五十箱、其他砲彈、小銃彈、支那馬多數

を鹹獲した、我が方の損害は戰死傷合せ

て三十九名にとどまつた。

我海軍週江部隊は次期作戦に入るに先

立ち秋雨けぶる十八日午後二時武穴の廣

濟縣體育場に於て入城式を舉行、海軍〇

〇司令官は〇〇前衛隊指揮官以下を從へ

て午後一時半武穴江岸より上陸、式場に

整列する續木武穴攻略部隊、土師馬頭鎮

攻略部隊を閱兵、兩部隊長を引見して攻

略戰の勞苦を犒ふと共に次期作戦への奮

闘を期待するところがあつた。

九月十九日 自家用瓦斯製造事業等取締規

則（商工省令第七九號）石炭配給統制規
則（商工省令第八〇號）

世界三億洞教徒との親善融和、相互の

福祉増進を目的とする「大日本回教協會」
の發會式が十九日午後五時から九段軍人
會館で開催。林銑十郎、川島義之兩大

將、小笠原長生子をはじめ約二百名參

集、審議の結果會長は林銑十郎大將と決

定。

秋冷既に至り夜は嚴寒を思はず、大別

山々脈の奥深く商城から敗敵を追つて追

擊中の我が部隊は早くも十八日朝沙窩東

北方約八キロに進出し余家集及びその南

方顯山の敵陣地を攻撃、これを擊破して沙

窩に迫つた、河南、湖北兩省境の大別山

にもあと僅に八キロである、省境を越せ

ばあとは一路千里、坂道を下るのみであ

るがこの坂の要害を中心據る敵に對し

我軍は如何なる作戦行動に入るか、健脚

有力部隊の活躍は今や嵐を孕んで大別山

中に霸氣満々、麗朗に明けた十九日、五

百メートルを越す難行進山嶺地區の溪谷

の稜線には肌を凍らす底冷たさを物とも

せず敗走する敵兵一人をも残さじと追撃
は益急である。
が軍の戰果は左の如く判明した。

一、光州方面の戰闘における敵の損害遺

棄死體一、三九五、迫撃砲一門、同砲

彈九〇、重機關銃四、輕機關銃一三、

同銃彈六六箱、小銃八三、同銃彈三、

三〇〇、手榴彈三〇箱と二〇〇發、自

動車三、無電機械一、擲彈筒一、山砲

彈一〇四、馬車九（わが方の損害、戰

死一七、戰傷五五）

一、商城方面的戰闘（富金山陥落より商

城占領まで）における敵の損害、遺棄

死體二、一八一、捕虜一三八、輕機關

銃二四、同銃彈六〇〇、小銃二八四、

（内自動小銃一）同銃彈八九萬、手榴

彈六九〇、圓匙五〇、鐵條網、鋼鐵線

六〇〇卷、セメント三、五〇八袋（わ

が方の損害戰死四八、戰傷二六〇）

九月二十一日 ズーデン地方をドイツに割譲する英佛共同提案にチエコ政府は同意した。

二十日廬山山系陳家嶺の一角を奪取せる布施部隊一部は引續き力攻又力攻、激戦十時間餘の後遂に地形の不利を克復して敵を排除、二十日夜刻遂に陳家嶺山頂を占領日章旗を翻したが二十一日午後に至るも追撃の手を緩めず急坂を攀ぢ敵を壓迫中である。

大別山々脈中央の要衝新店も遂に陥落した、二十一日朝我商城より進撃する部隊は雨と泥濘を冒して新店を猛撃これを占領し午後三時には新店南方一キロ附近を南進して追撃中である。

大別山山系北方部隊が八月二十八日六安附近占領以來九月十七日光州、商城攻捕摩三五四、鹵獲品追撃砲一三、平射

砲一、重機一五、輕機一〇一、小銃及び彈藥その他多數、我損害戦死約五〇

した。

九月二十二日 商工省ニ臨時轉業對策部設置ノ件（勅令第六五一號）電氣工人ノ業務ノ從事ノ特例ニ關スル件（遞信省令第七二號）公布

○。

天皇陛下には二十二日午後二時宮中鳳凰ノ間ににおいて近衛首相侍立のもとに新駐伊大使白島敏夫氏の親任式を行はせられ、白島氏に對し大使に親任の旨勅語を賜ひ近衛首相より官記を授けた、なほ重光新駐英大使も同日發令内閣より傳達した。

特命全權公使 從四位勳二等 白島 敏夫
任特命全權大使伊國駐劄被仰付
正四位勳二等 特命全權大使 重光 葵
英國駐劄被仰付

光州から西北方に向つて進撃中の我が軍は沙河を渡河し余家棚、十里墩を席巻した我が有力部隊は二十日午後三時頃には羅山東方六キロ付近に達し他の一部隊は同四時三十分頃には羅山西南方四キロの小羅山を占領した、かくて東南兩方面よりの總攻撃態勢全く整つたので雨中夜間攻撃を續け二十一日未明には城壁を圍むクリークを突破して遂に午前七時三十分羅山南門の挹秀門に突入城門高く日章旗を翻した、續いて主力は同十時入城し茲に信陽の前衛防禦點たる羅山縣城は光州陥落後僅に五日にして我が完全占領するところとなつた。

羅山陥落は信陽に集結する敵大部隊に

東北方三十二キロの地點にある河南省の要衝息縣を占領した。

我が〇〇部隊は二十一日午前七時三十

一大衝撃を與へたことは想像に難くない

た。

が、更に北方は正陽を經て京漢線要地確

山に、或ひは淮河北岸の息縣に通じ南方

は大別山山系を越え黃安を經て武漢に通

じてゐるこの軍事、交通要衝を我軍に押

へられたことは敵に取り致命的打撃とい

はねばならぬ。かくて破竹の大別山作戦

部隊は八月下旬行動を起してより六安、

霍山、固始、葉家集、商城、光州、光山

沙窝、新店と文字通り朝に一城、夕に一

砦を抜くの概を示し、怒濤の如く進撃

今僅に殘る羅山をも掌握されこゝに大別

山麓地盤の主要陣地據點は悉く陥落し敵

の恃みの綱の大別山ラインの外廓線は全

く崩壊するに至つた。

二十一日午後四時佛山岩、關頭山、柯

家の線に進出した原田、田中、永井各部

隊は山嶺地帶の大進撃を續行、同夜深更

闇を衝いて増水氾濫せる渓流を腰まで水

浸しとなつて渡り對岸の賀石橋を占領し

陽新東方を猛進中の我軍は二十二日午

後二時坡峰尖を占領拂曉より更に敗走す

る敵を擊退し夕刻西家嶺、宋家山の線に

進出これを確保した、宋家山は陽新へ二

里の地點にありこれを眼下に見下し將兵

の士氣沖天の概がある。

九月二十三日 中支方面における戰果は左

の通りである。

大別山々脈北麓方面 この方面における

八月二十八日以來九月十七日光州商城攻

略迄の戰果中判明せるもの左の如し。

イ、敵遺棄死體一萬二千、捕虜三百五十

四 口、鹵獲品、迫撃砲一三、平射砲一、重

機關銃一五、輕機關銃一〇一

廣濟以南方面 この方面における八月二

十日より九月十七日に亘る間判明せる戰

果左の如し。

イ、敵の棄遺死體四萬七千九十五、捕虜

一千二百十三
ロ、鹵獲品、野砲一〇、迫撃砲二五、速射砲四、輕機關銃一四一、山砲一一、

機關銃二、重機關銃六四

重疊たる山岳地帯を征服して驚異的進

撃を續ける綱湖南方のわが軍は老山、宋

家山の南角を猛進、二十三日午後早くも

美女嶺、大岡山、百疊山の連峰を取つて

陽楊山、北山附近に進出、木石港附近で

彼我入り亂れ大激戦が行はれて居る、一

方長江筋に沿うて進撃する部隊は富池口

を圍み中嶺の連峰の一角に取付き奮戰を

展開して居る。

昨夕瓦石橋の線を突破した原田部隊は

更に孫家大灣の部落を占領して無人の境

を行くが如く丘陵地帯に包まれた田圃の

畦道を馳驅突破し遂に二十二日午後七時

陽新南方四里の木石港を占領した。

内務省の三大治水事業の一つである利

根川増補大改修計畫につき同省では二十

三日午前十時より會議室に群馬、栃木、埼玉、茨城、千葉、東京府の一府五縣の知事及び土木部課長を招き本省側より館次官、安藤土木局長、辰驥技監等出席し本省の計畫概要を説明したが、同省としては近く省議決定の上、豫算を大藏に要承し明年度より工事に着手することになつたと傳へらる。計畫概要是

工費九千百二十六萬六千圓△内訳—
事務費五百十六萬六千圓、工事費八千
六百十萬圓、(1)利根川上流改修(工
費千四百三十萬圓) (2)利根川下流改
修(工費五百六十萬圓) (3)新放水路
の開鑿(工費三千九百十萬圓) (4)小
貝川の改修(工費二百八十萬圓) (5)

江戸川改修(工費九百七十萬圓) (6)
利根運河の開鑿(工費二百九十萬圓)
(7)渡良瀬川の洪水調節池(工費九百
三十萬圓) (8)渡良瀬川の改修(工費
二百四十萬圓)

九月二十四日 ゴーデスベルグに於けるチエ

ンバレン、ヒツトラー第二次會議は二十

三日午後十時三十五分より約三時間の後

二十四日午前一時二十五分終了したが會

談終了後左の如き共同コミュニケが發

表された「ドイツ政府はチエンバレン首

相に對しへズデーテン地方の事態に對する

ドイツの最後的態度を示せる覺書を手交

した、チエンバレン首相はこれをチエコ

政府に傳達するはずである」右會議にお

いてヒツトラー總督はドイツ軍のズデー

テン地方即時占據を主張して譲らず、そ

こでチエンバレン首相はかかる點を含め

たるドイツの態度をチエコ政府に傳達す

ることとなつたと想像される、しかしこ

の手續をとることによるドイツ軍のズデ

ーテン地方への連軍に對しチエコが應戰

しても英佛兩國はこれを軍事的に援助す

るものと解せられる。

二十四日の生き日は空爆と總攻撃に暮

れた、特に敵の最重要防禦線たる富水の

線に連擊のわが精銳部隊の活躍は物凄く

人事の限りを傾けた、堅壁に據る敵の必

死の抵抗も次ぎ／＼と崩れ、北は揚子江

に臨む富池口背後中嶺の連峰朱婆山の嶮

峻に據る頑敵約二千も前頭總崩れとなり

死體約六百を殘して遁走、わが方はこれ

を追撃中であつてこれに呼應する綱湖南

方地區は老山連峰雷鳳塞西南に聳ゆる東

山及び玉林山の各一角を奪取、激戦を展

開更に南方の諸部隊は遂に二十三日夕か

ら二十四日夕にかけて木石港は勿論疾風

の如く楊柳山、馬鞍山、波瀬尖の各陣地

を征服、日章旗を連立すると共に勢ひに

乗じて黃金山、霧嶺山、大德山、許子坡

(各標高八百乃至一千メートル) の各要

害に肉薄、わが勝闘は山岳に冠して勇壯

限りない。

二十四日の秋季皇靈祭、大陸の秋いよ

いよ濃く、各戦線の皇軍將兵は兩三日のみ
雨さへ混へた曇天がからりと晴れ、燐々
と降り注ぐ陽光を浴びて土氣益旺盛である、この日を期して陸、海、空の精銳は
渾然一體となつて一齊に振り立ち、猛攻
又猛爆の轟音は長江を壓してゐる、先づ
○○部隊始め各部隊では心ばかりの赤飯
を炊いて部隊長以下嚴肅に東方を遙拜
し、聖戰の目的貫徹を誓ひ、此日盧山南
麓戰線は早曉を期して總攻擊を開始、網
湖南方地區も重疊たる山嶺の頑敵總攻擊
を敢行 江南共著るしく戰果を擴張し
つゝある。

九月二十五日 海軍飛行部隊と密接なる連
繫協力を保ちつゝ長江南岸の山岳地帯
を進撃中の末次、秋富各部隊は二十四日
拂曉から中嶺、大嶺に蟠居する頑敵第一
一、一九三、五四、一八、四八、四九、
五〇、三一の各師に屬する約五千を猛攻
の後遂にこれを擊破し同日午後一時敵が

馬頭鎮以上と頼む堅固さを誇つた要塞富
池口に日章旗を纏へした、この日宛も秋
季皇靈祭に際しこの堅陣を占領した將兵
は、感激の涙さへ浮べて遙か東方の空を
遙拜、聲高らかに萬歳を叫んだ、八日間
に亘る激戦の結果今敵に多大の損害を與
へ大なる戰果を獲得するを得たが暴兵よ
く天險の大要塞を落した友軍將兵にも又
少からぬ犠牲者を出し敵陣地を賣い血潮
で染めたのであつた、二十五日迄に判明
せる敵の損害は遺棄死體だけでも千二百
を算し捕虜も又二百の多きに上り要塞砲
十門、迫擊砲二門、同彈藥三百發、機關
銃、自動小銃二百、同彈藥五萬發、手
榴彈五百發、ジャンク七十隻、鹵獲する
などこの方面の戰闘が如何に激烈であつ
たかを物語るもので、同要塞を占領した
各部隊は引續き殘敵を掃蕩し戰果を擴張
中である。

九月二十六日 古林部隊の偵察により漢口
飛行場に大型飛行機五臺、小型飛行機八
臺あるを探知せる我が航空部隊は二十六
日午後三時〇〇基地を出發これを急襲せ
り、我が空襲部隊は敵の熾烈なる高射砲
撃を冒し徹底的に爆撃を敢行し、確實に
命中破壊せるもの九臺、破片を以て蔽は
れたもの三臺計十二臺なり、高橋部隊の
一機高射砲彈の破片のため輕微なる損害
を受けたるも全機無事歸還せり。

航空隊は二十三日惡天候を冒し〇〇機
をもつて午前十一時三十分信陽停車場を
爆撃し構内にありし列車十一並に馬匹を
有する敵數百及び多數の軍需品に對し多
大の損害を與へ又〇〇機は南山下（木石
港東南十五キロ）附近の約二千の敵部隊
を爆撃し多大の損害を與へた。尙〇〇機
は廿四日蘄春、田家鎮、武寧を爆撃し共
に大なる損害を與へた。

陽新前面の敵猛攻中の快速鈴木部隊は
航空部隊の協力を得て楊柳山、北山の西

南、霧嶺山、大德山、許子坡等の敵陣を猛攻、廿六日午前十時標高八百米の霧嶺山を完全に占領、山上高く日章旗を掲げた、續いて同正午顏子山南側の敵を撃退した、依然猛追撃を續行中である。

九月二十七日

一、一昨二十五日中支方面

に於て海軍航空隊の精銳〇〇機は江上艦艇及び地上部隊の作戦に協力終日に亘り反徳大爆撃を敢行、敵砲兵陣地、敵據點部落及び京漢線上の貨車群等を爆破し甚大なる戰果を收め全機無事歸還せり

二、蘄春攻撃部隊はその附近一帯に蟠居する敵密集部隊を爆撃、砲陣地、トラック縱隊を統爆撃し多大の損害を與へた、尙田家鎮方面に於ては猛烈なる地上砲火を冒し果敢なる爆撃を實施して江上に機雷を敷設中の機艇及びジヤンク群四十數隻を攻撃飛散せしめたり、又他の攻撃部隊は江南地區及び陽新、

通山等に密集せる敵大部隊を爆撃多大の損害を與へその進出を阻止せり

三、昨二十六日南支方面において海軍航空隊の精銳〇〇機は長驅廣西省の要衝及び桂林飛行場を空襲地上に在りし敵數機及び格納庫を爆破して格納庫五棟を大破せしめ全機無事歸還せり

九月二十八日 チェンバレン英首相は最後の手段としてドイツの總動員を延期せしむるため、この際ムソリニ伊首相を蹶起せしめヒトラー總統に最後の勸告を依頼した結果ムソリニ首相もこれを受諾し、ドイツ駐劄イタリー大使をしてリッベントロップ獨外相に面會せしめ總動員延期を要請した結果ヒトラー總統もこれを受諾しその結果二十九日午後三時ミニンヘンにおいてヒトラー獨總統、チエンバレン英首相、ムソリニ伊首相、ダラヂエ佛

内閣總理大臣正三位勳一等公爵近衛文麿兼任外務大臣招務大臣ノルマニン外務大臣兼招務大臣宇垣一成依頼免本官並兼官揚子江南岸各部隊は三十日の時雨を留して進撃中であるが、寺垣部隊は石抗舗

九月二十九日

二十八日午前十時田家鎮の死命を扼する背後の高地李家山、玉屏山、陽城山の各山頂を占領したわが長江北岸進撃部隊は雪崩の如く敗走する敵の大部隊を山頂より驅け下つて一氣に同要塞に空入二十九日午前十一時四十五分こ

れを完全に占領、同要塞に秋空高く日章旗を舞し揚子江の濁流を望んで萬歳を絶叫した、又武漢の關口田家鎮大要塞は遂に陥落せり、即ち我が攻略諸部隊は二十九日早朝その陸正面堅蟲の大部を占領して全くその死命を制し午前十時先鋒は田家鎮に進入せり。

九月三十日

内閣總理大臣正三位勳一等公爵近衛文麿兼任外務大臣招務大臣ノルマニン外務大臣兼招務大臣宇垣一成依頼免本官並兼官揚子江南岸各部隊は三十日の時雨を留して進撃中であるが、寺垣部隊は石抗舗

に進出し富水の流れを指呼の間に望みその河畔なる排市陥落も最早や時間の間顯となつた。そば降る秋雨を衝いて三十日朝、總攻撃を開始した藤岡部隊は正午遂に掛市（陽新西南三十キロ）東方一キロの和現の一角を占據、排市を眼下に睥睨しつゝ進撃を續けてゐる。

十月一日 恩給金庫法施行令中改正（勅令第六六三號）公布宇垣外相退職したる結果四相會議に左の如き對支院要綱が提出されたと傳へらる。

一、支那事變中内閣總理大臣を總裁とする對支中央機關を設置し對支院と稱す
二、本機關の管掌すべき事項左の如し但し「涉外事項」を除く
(一) 支那事變に當り支那に於て處理を要する政治、經濟及び文化に關する事務

(二) 前號に掲ぐる事項に關する諸政策に關する事務

(三) 支那に於て事業を爲すを目的とする特別法律により設立せられたる會社の業務の監督並に支那に於て事業を爲すを目的とする會社の業務の統制に關する事務
(四) 各廳の支那に關係する行政事務の統一保持に關する事務
三、前項の事項に關し重要な事務を關係各廳と連絡處理せしむるため對支院に連絡委員會を設置す
四、對支院の現地機關として支局（假稱）を現地所要の地に設置す

五、總裁の諮詢に應じ對支院の權限に關する事務中重要事項を調査審議し且總裁に所要の建議をなさしむるため、對支委員會を設く、本委員會には民間の有能達識の者を加へ國民的輿論を表現せしむる。
九月十一日瑞昌附近より攻撃を開始し西進せる江南の諸部隊は陳誠麾下の敵軍を擊破しつゝ月半ば頃江西省境を突破湖北省に進入、今や既に富水附近に到達せり、戰果に關し戰線の一部に於て既に判明せる主要なるものをあぐれば左の如し。

敵の遺棄死體約三千二百、鹵獲品小統

弾約九十三萬、手榴弾約三千百、砲弾

各種約一千四百、小銃約一千百、機關

銃四十、火砲各種三十、地雷二百六十

車輛十一、築城材料多數

北支軍司令部は漢口攻略戦もいよ／＼

本格的段階に入り作戦範囲の擴大とともに

に第三國人の生命財産に危殆を生ずべき

やも保し難き状態に至つたので徐州會戰

當時の例により左の如く第三國側に要望

するところがあつた。

「黃河以南における京漢線沿線鄭州附近

以西隴海線沿線並に上記兩鐵道線中間

地域におけるその人民並に財産に關し

當軍が既に要請したる諸件を速かに且

つ確實に實行せられんことを要請する

ものなり。」

十月二日 全國二百萬店員待望の商店法は

いよ／＼一日から實施——惠まれぬ店員

に午後十時からは安息と休養の世界が展

けたのがこの日午後九時半實情やいかに

と案じた廣瀬厚生次官、鈴木監督課長、

渡府經濟部長、田中商務課長、警規廳野

村保安部長、上山工場課長、府聯合商店

會、林理事長、高橋主事等が一齊に街頭

に進出、記念すべき商店法第一夜に感慨

軍の攻撃特に、砲爆撃が行はれる際日

本軍に反抗する部隊、軍事施設等をそ

の財産に近接せしめざるの處置等に對

しても萬遺漏なからしめん事を要望す

るものなり、日本軍は第三國人の生命

財産を尊重保護するため敢へて作戦上

大なる不利をも忍びつつあり、第三國

に於いても至公至平の實慮をもつて戦

闘途行の狀態を認識の上日本軍の眞摯

なる努力に協力せられん事を要望する

ものなり。」

十月三日 畏き邊では支那事變勃發以來四

五百メートル以上の高地の嶮を冒し猛攻

を重ね二日午前十時仰天堂を占領した。

占領した、寺垣部隊岩隅、吉松兩部隊は

備の重要線と恃む富水河畔の排市（陽新

西南約三十キロ）を二日午前九時四十分

も深く共同規察を行つた。

藤岡、松山、溝口各部隊は敵が武漢防

禦の重要線と恃む富水河畔の排市（陽新

西南約三十キロ）を二日午前九時四十分

占領した、寺垣部隊岩隅、吉松兩部隊は

備の重要線と恃む富水河畔の排市（陽新

午前十時五十五分宮城に参内、同十一時
表御座所において天皇陛下に拜謁仰付け
られ恭々しく勅語を拜受、更に大奥にお
いて松平宮相より御内帑金御下賜の旨傳
達され、大御心に恐懼感激して宮中より
退下した。

勅 語

朕カ陸海軍人ノ忠誠勇武ナル明治以來屢
國難ヲ克服セリ而シテ今次ノ事變師ヲ隣
疆ニ出スヤ又克ク忠烈ヲ勵ミ以テ國威ヲ
中外ニ顯揚シ朕カ忠實ナル臣民統後ニ在
リテ相率キ公ニ奉シ出征ノ將兵ヲシテ後
顧ノ憂ナカラシム朕深ク之レヲ嘉尚ス惟
フニ戰局ノ擴大スル或ハ戰ニ死シ或ハ戰
ニ傷キ或ハ疫溝ニ墮ル、モノ亦少カラス
是レ朕カ夙夜惻怛禁スル能ハサル所ナリ
宜シク力ヲ軍人援護ノ事ニ効シ遺憾ナカ
ラシムヘシ茲ニ内帑ヲ頒チ之レカ貲ニ充
テシム卿其レ朕カ意ヲ體シ之レカ規畫ニ
當リ克ク其ノ績ヲ舉ケンコトヲ期セヨ

十月四日 厚生省ニ失業對策部ヲ設置スル

ノ件（勅令第六六七號）道府縣手數料令
中改正ノ件（勅令第六六八號）自動車取

締令中改正（内務省令三四號）石炭取締
統制規則中改正（商工省令第八五號）公
布

四日午前九時十分我が海軍陸隊は江
上艦艇、海軍航空部隊及び一部陸軍部隊
協力の下に田家鎮對岸半壁山要塞を占領
せり。

三日山嶽戰前線の猛攻撃におけるわが
岩下、柴田、柳澤、福井の各部隊の前進
は近來の快事であつた、徳永、柴田の兩
部隊は互に彈雨の中を躍進又躍進、午後
一時四十分梅家灣東方の山角に取付き暫
時猛烈に射合ふと見る間に忽ち山角を越
えて三時十分には梅家灣に突入して古
領。

村上、都築兩部隊を先鋒に我軍は四日
午後三時半から新店前面の敵陣人形山東

北の「ヘ」高地に向つて最後の突撃を敢
行し戰闘實在一時間、四時二十分遂に全
地で、全山鐵筋コンクリート製のトーチ
山を占領した。

同山は人形と共に新店前面の敵主陣
カの掩蔽壕に蔽はれた堅陣である。

三日以來隘口街前面の敵を猛攻中の徳
永、柴田、福井各部隊は四日午後二時二
十分鉢巻山を占領、息つく暇もなく更に
前面の高地に進撃午後四時には一文字山
高地に進出した、一方小原、澤多、岩下
津田各部隊も宋家灣北方から敵を壓して
四日午後二時には黃恩寺高地（標高三百
メートル）に達し、三方からの敵の猛射
に遭ひしも占領地を確保し、隘口街を睥
睨してゐる、なほ岩下、山田部隊は硝瓜
船を猛攻中である。

一大要塞を形成する隘口街附近の戰闘
は敵中央直系軍の精兵をすぐつて集中し
てゐるだけになかゝる頑強で僅に肉彈に

どつて前面に聳える硝瓜船、黃龍山、華龍山の三大據點を結ぶ約四キロの三角形地帶の三分の一を完全に占領引續き猛攻中であるが四日は硝瓜船方面は依然有利に進展しつつある。

徳永、柴田、福井各部隊は黃龍山東北山麓敵右翼據點一文字山を午後三時二十五分占領、高らかに凱歌を奏した。

江南戰線の大勢を支配した重要據點箸溪は四日夜半遂に陥落した、友軍釣瓶射の砲撃は江南の山嶺を搖がし炸裂する砲彈は修水の流れを血に染めて物凄い、轟轟を並べて箸溪城壁へ殺到した我部隊の叫ぶ萬歳は月明の箸溪平地一帯に響く、かくて江南戰線における武漢包圍の陣型は半ば以上進められたことになつた、四日夜半こそこの歴史的瞬間だつたのである。

十月五日 半壁山占領後尙も攻撃の手をゆるめず、その西南方四キロ馬鞍山の堅壘

に對し五日拂曉を期し總攻撃に移つた、陸戰隊士師部隊は〇〇より進出したる陸軍南岸部隊と緊密なる協力の下に敵を逐次西方に壓迫忽ち激戦を展開海軍航空隊の協力下に突撃を敢行五日正午完全に馬鞍山を占領山頂高く軍艦旗を翻した。

(漢口より江上七七〇浬) の四川省の重慶までも空襲したので重慶市民は大恐慌を來したが五日正午又も日本空軍襲來

の警報が鳴り響いたので市民は仰天して防空壕に駆け込んだ、ところが日本軍飛行機は宜昌上空を過ぎて重慶を襲撃する見えたが宜昌を去る西方六十マイルの地點から引返して重慶には飛来しなかつた、過去六年間に又この六週間に多くの仕事をしたがこれには強い力、即ち國民の團結が必要であつた、自分はドイツの政權では今後も日本空軍の空襲ありと見込んで重慶市民の一部を引揚げしむる計畫を完成したと、そのため重慶では憲兵

及び巡警が各家庭戸別訪問して職業及び同居人の有無を調査し必要の際は要務のない者は一週間以内に重慶より退去を命ずることになる筈である。

半壁山の戦闘における敵の遺棄死體は約三百五十、要塞砲を始め精銳なる武器多數、裝備の點から見ても敵は中央軍中の精銳部隊であることが判つた、我が陸

十月六日 五日夜ベルリンのスポルト。パラストで開かれた第六回冬季救濟事業開

會式に於て行つた演説でヒットラー總統は「自分の背後には全ドイツ國民が控へてゐる、我々は大目的のために働いて来た、過去六年間に又この六週間に多くの仕事をしたがこれには強い力、即ち國民の團結が必要であつた、自分はドイツの友人ムソリーニ伊首相に感謝し、平和を得たことを感謝する、自分はドイツ國民を誇りに思ふ、十月十日にはズデーテン

地方のすべての區域を我が領土とするのだ、自分は我々の問題を自分で解決して行く、ズデーテンではドイツへの合併を喜んでゐるがズデーテンの町村を見ると救濟が必要だ、我々は今迄に短期間で困難を排除して來た、國民の團結で更に困難を排除しなければならぬ」と述べた。

五日正午馬鞍山頂高く軍艦旗を纏した海軍陸戰隊士師部隊は息つく間もなく算を亂して潰走する敵を急追一氣に黃金山麓に迫り陸軍秋富部隊と協力して敗敵に猛撃を加へ同夕刻これを占領した、一方續木部隊も曹洞塞砲臺を占領、續いて唐家灣を確保、陸軍部隊は馬家灣附近へ進出猛攻を加へてゐる、敵は牙城と恃む田

空しく今馬鞍山、黃金山の守りも潰えて武漢防衛の主陣地はこゝに全く寸斷された、かくて流石の敵も今は全く守るに由

なく砲を棄て銃を抛ち黃金山麓傳ひに上流へ雪崩を打つて潰走を續けてゐる。

打ち續くわが猛進撃砲撃に隘口街を死

守する敵は次第に浮足立ち六朝來左翼方面の敵はわが大島、德永、柴田、福井

富澤の各部隊の進撃に堪りかねて動搖し砲撃下に前進を續け遂に六日午後中支有

數の温泉場である溫塘傳を占領、更に大島、德永各部隊は敵の重要塞地華龍山

(標高三百六十七メートル)に突撃して六日午後四時遂にこれを占領、わが砲兵

陣は潰走する敵に猛撃を浴せつゝあるが敵は華龍山から黃龍山に續く溪谷を縫う

て鄱陽湖畔へ抜けて敗走しつゝあり。

十月七日 輸出綿製品配給統制規則中改正

(商工省令第八六號) 公布

羅山附近より信陽方面へ向け本道の南側を進撃中であつた〇〇部隊の先鋒部隊にして象山要塞を半ひ半壁山要塞も亦

に到着、夜陰に乘じて京漢線信陽南方五里の柳林驅を急襲、午後九時同停車場の爆破に成功した。

盧山南麓に於ける我猛攻は遂にその堅壘を瓦解せしめたり我部隊の一部は六日午後敵の右翼據龍たる華龍山を奪取し、

更に夜を徹する急追に本七日拂曉隘口街南方黃龍山の連山を突破、遠くその西南端に突進し得たり。

十月八日 支那事變關係の輝く論功行賞第

四回分はいよいよ今夕、遅くも明八日午前には内閣賞勳局並に陸、海軍當局から發表される、人員は陸軍關係五千四百

數十名、海軍關係七十餘名、合計五千五百數十名、何れも大陸の戰線に赫々不滅

の勳功を樹てゝ戦死又は戰傷死を遂げた勇士ばかりで、その中に、昨年八月二十

五日拂曉上海戰線の最前線で不幸胸に敵弾を受けて壯烈な戰死を遂げた部隊長、故倉永辰治陸軍少將(戰死當時大佐)の

燐然たる名も見受けられ、その他の者も大部分が金鵄勳章を敍賜される模様であるが、武功卓越して殊勳の榮譽を受けられる陸軍の勇士は百四十数名、海軍の優賞は數名の見込みである。尙通州事件で悲憤の死を遂げた特務機關長細木繁大佐、甲斐厚中佐以下も同事犠牲者の紅二點タイピスト濱口文子娘、秀島ハマエ娘と共に恩賞に浴してゐる。

廬山山脈の最重要陣地硝瓜船に向ひ四

日夕刻以來猛攻中の我が布施、山賀、川

上、小原の各部隊は八日午前十時三十分遂に硝瓜船を完全に占領す。

海軍遼江部隊は八日午前十時斬春を古領す。

八日午前我が山家、布施各部隊が硝瓜

船の山頂を確保するや續く黃恩寺山、唐

家山にあつた頑敵は俄然動搖を來し山蔭

を傳つて敗走、我が布施、津田の兩部隊

は急追して黃恩寺山を抜き八日午後四時

には遂に隘口街東北側前面の唐家山を完全に占領日章旗を齧した、これがため隘

口街の頑敵も全く總崩れとなつて中秋の

明月が鄱陽湖上に淡い光を投げた頃潰滅

殘敵は雪崩を打つて德安方面に遁走を開

始した、我が最前線各部隊はその明月下

に息をもつかず隘口街に向ひ猛進、小原

部隊は同夜九時遂に隘口街に突入し之を

占領して月下に日章旗を揚げ、岩下部隊

は敵の頼る最後の高嶺鳥石嶺を猛攻中で

ある。

十月九日

信陽前面の最強陣地として敵が必死に抵抗を續けた五里店は九日午後つ

ひに陥落、午後三時には我軍は早くも同

地西方五キロの楊家灘附近を敵に追尾しつゝ一路西進しある。

羅山北方を進撃中の我部隊は九日午前

二時夜襲により九家店（五里店北方十餘

キロ）を占領した。

三日來の細雨そば降る前線をひた押し

には遂に隘口街東北側前面の唐家山を完

全に占領日章旗を齧した、これがため隘

口街の頑敵も全く總崩れとなつて中秋の

明月が鄱陽湖上に淡い光を投げた頃潰滅

殘敵は雪崩を打つて德安方面に遁走を開

始した、我が最前線各部隊はその明月下

に息をもつかず隘口街に向ひ猛進、小原

部隊は同夜九時遂に隘口街に突入し之を

占領して月下に日章旗を揚げ、岩下部隊

は敵の頼る最後の高嶺鳥石嶺を猛攻中で

ある。

十月九日

信陽前面の最強陣地として敵が必死に抵抗を續けた五里店は九日午後つ

ひに陥落、午後三時には我軍は早くも同

地西方五キロの楊家灘附近を敵に追尾しつゝ一路西進しある。

羅山北方を進撃中の我部隊は九日午前

二時夜襲により九家店（五里店北方十餘

キロ）を占領した。

三日來の細雨そば降る前線をひた押し

に信陽へ向つて攻め寄せつゝある信陽攻

撃部隊は八日夜より未明にかけて激戦の

後遂に信陽西南二里の鷄鳴寺を陥れた。

十月十日

羅山、信陽道をヒタ押しに進む

○○部隊は九日午前遂に待望の五里店を

陥れ尙破竹の勢ひを以て信陽へと

一路突進しつゝあり、更に大別山連峰を

踏破して京漢線を遮断確保した各部隊は

數日來の霖雨にドブ鼠のやうに濡れそ

ぼながら、いよいよ鐵火の如き攻撃力を

發揮し、激戦又激戦を繰返しつゝデリ

／＼と敵を追詰め、九日夕刻には信陽西方一里李灣附近の通稱五八一高地を占

領、これを左翼として京漢線を跨ぐ東西

三里餘の大包圍陣形を完成するに至つ

た、珍しく頑強な抵抗を見せて居た信陽

防備の敵大車も今や敗色蔽ふべくもなく

く、わが機上よりの偵察は信陽城内の敵

兵力の激減を傳へ、今や破竹の勢ひでわ

が軍が渾河を敵前渡河し、一舉に信陽城

壁に待望の日章旗を立てる時期は刻々に迫りつゝあり。

社會の耳目を衝動した夕張炭礦天龍坑

大慘事の救出及び死體發掘作業は事件勃

發以來四晝夜と十三時間を費し十日夜十

時半に至つて全部の死體搬出を終つた、

地下二千メートルの魔の坑道が呑んだ痛

ましい犠牲者は死傷合せて百七十八名

で、爆發直前の入坑者三百二十七名のう

ち當時第二ロング附近で作業してゐたた

め辛くも魔の坑道から脱出することを得

た百四十七名を除く残餘の人々の九割ま

で悲しき死體となつて戻つた譯であつ

て、我が國鐵山史に尊き犠牲の一ページ

を加へた。

陸軍飛行隊秋山部隊は十日朝來連續五

回に亘つて京漢線爆撃に出動午後零時十分田中大尉、大平中尉、野澤中尉の指揮する〇〇機は信陽北方四十キロの明港北方約六キロ淮河の支流に架る鐵橋を低空

爆撃により破壊した、これで京漢線は南北共に切斷されたが鐵道により敵の退却は不能となり信陽に残る敵列車群は大部分我手に歸したも同様である。

〇〇部隊鶴飼茂夫准尉の率ゆる輸送部

隊は九日夕刻敵彈雨飛の中を物ともせず

大洋河鎮へ食糧を運ぶべく大洋河鎮の東

南六キロの丘陵地帶に差しかゝつた際重

輕機數挺を持つ二百の敵が丘陵の頂に

ある森の中に斬壕に潜みわが部隊の進撃

に備へて居るのを發見した。味方は百名

足らず、敵は二倍以上の兵力だ、こちら、

は小銃も全員の半分位しか持つて居らず

重火器を持つ敵に眞正面から打突かつて

は到底勝ち味がない、然し鶴飼隊長以下

全兵士とも「好敵御參なれ」とばかり勇

み立ち隊長を先頭として全員腹仰ひなが

ら敵前間に潛行し百メートルの地點まで達した時隊長の「突込め！」の號令一

下猛然わづと喊聲を擧げて肉彈總攻擊

を行ひ敵陣へ殺到した、不意を衝かれた敵兵は度膽を抜かれて狼狽を演じたがそ

れでも大半のものはわが方自がけて死物狂ひとなつて反撃して來たので約一時間に亘り大亂戦の末これを潰走させば

餘名を生擒り重火器、小銃多數を鹵獲さ

同陣地を完全に占領し天地も裂けよとばかり萬歳を絶叫した。

陸軍志摩部隊の一部は蘄春上流十五里の蘄家舗を占領。

十月十一日 日華電話規則（遞信省令第七四號）公布。

我が海軍陸戰隊は十日頑敵に抵抗する

擊破して午後五時蘄春對岸下流の揚子江南岸の要衝火山を占領山頂高く感激の大軍艦旗を翻した。

既に蘄春に至る江岸の敵を制壓せる海軍週江部隊は航空部隊と協力し蘄春上流數マイルに至る地點迄進撃機雷清掃作業は著しく進捗を遂げつゝあり、尙昨十

日海軍陸戦隊は頑強なる敵を撃破し江南岸の要地火山を占領せり、海軍航空部隊は昨十日終日に亘り左記地區を攻撃多大の戰果を收め全機無事歸着せり。

中支方面 江上艦艇及び陸上部隊の作戰に協力せる部隊は江南岸長湖、北岸地區及び下漳山東麓等に於ける敵陣地を爆撃せり

南支方面 廣九線攻撃部隊は不良なる天候を冒し西村驛、浦頭夏墟鐵橋を攻撃同鐵道を崩潰切斷し貨車約二十輛を

粉碎その一部を炎上せしめたる外建物數棟を爆破せり、地上銃砲火熾烈なりしも我に損害なし

粵漢鐵路 攻撃部隊は密雲の間隙を利用し英德、源潭間鐵を攻撃し銀盡拗鐵橋

その他に大損害を與へたり

十月十二日 肥料取締法施行規則中改正
(農村省令第三五號) 飼料配給統制法施行
行期日(一〇月一五日)ノ件(勅令第六

七九號) 飼料配給統制法施行令(勅令第
六八〇號)公布

十二日未明突如南支〇〇灣に進撃した我が〇〇部隊は折柄舊曆十七日夜の月明に潮水の如くに浪穏かな海面を衝いて敵前上陸を敢行、海陸の緊密且巧妙な作戰見事に効を奏し東天尚白まぬ午前五時頃早くも上陸に成功した、沿岸一帯に陣地を固めてゐた敵も之に虚を衝かれて狼

狽、抵抗の氣力を失せたものか僅かに十數發の砲聲が曉闇を破り天明と共に沿岸の山々に轟くのみ、敵の死傷亦不明なるもわが方損害殆どなく未曾有の敵前上陸は全く空前の成功を收めた、上陸軍は直ちに進撃に移り目下着々占領地擴大中。

十月十三日 工作機械製造事業委員會官制
(勅令第六八一號)公布

江南戰戰の第二の箸溪ともいふべき辛潭浦が十三日前九時五十分陥落。

(一) 上陸部隊の戰況は極めて有利に進

展し上陸部隊は各方面とも破竹の勢ひを以て前進し上陸第一日夕刻には早くも海岸を隔たる二十キロの奥地の線に進出し十三日引續き前進中なり、わが損害は目下のところ皆無の模様なり

(二) 天候引續き良好にして上陸極めて順調に進捗しつゝあり將兵の士氣は極めて旺盛なり、敵飛行機は屏息して何等活動せず

廣東省東部〇〇海岸に上陸せし〇〇部隊は十二日左記佈告を發した。

佈 告

抗日容共を以て國策となす國民政府は事變發生以來我が忠勇無比の陸海軍の爲め百戰百敗既に數百萬の將兵を犠牲

と爲し昨初冬首都南京城の守を失ひ更に今春徐州に大敗し今や武漢三鎮危険に瀕し此の間全國四億民衆をして塗炭の苦嘗めしむと雖も尙未だ抗日戰の迷夢より覺めざるは實に隣邦帝國の深く

遺憾とする所なり

大日本帝國は茲に止むを得ず大軍を編成、抗日容共の根源たる廣東省へ作戦し中國をして速かに迷夢より覺醒せしむるに決せり、我が作戦軍は十月中旬

を期し廣東省東部海岸に於て大舉上陸を開始し陸海空軍の緊密なる連繫の下に完全に上陸を完成せり、我が軍は帝

國政府屢次の聲明の如く中國民衆を敵とするものにあらず、故に當地方無事

の民衆は安しく安居樂業すべし、又正規兵と雖も悔悟し銃を棄てて我に附隨協同するものはその生命財産を保障すべし、然れども又我が軍に抵抗し或は害を加へんとするもの或は敵軍と款を通ずるものはその何人たるに論なく決して寛恕せざるべし、日本帝國の中國に對し要求する所のものは即ち速かに從來の錯誤を悔悟し抗日容共の政策を抱棄し東亞永遠の和平の爲に日支兩國

民衆の提携を實現する事之なり我が軍は上述の目的を實現する迄進み止む所

なし 大日本南支方面指揮官

我が海軍航空隊は本日も粵漢廣九兩鐵道に大爆擊を加へた。

十月十四日 石炭坑爆發豫防試驗所官制

(勅令第六八二號)、石炭坑豫防試驗所處務規程(商工省訓令第六號)公布

長江南岸を進撃の陸戰隊は十三日正午江岸部落道土城に肉薄前後四時間に亘り力戰奮闘午後四時遂に突撃に移り之を占領した。

海軍陸戰隊〇〇部隊は十四日拂曉四時陸軍高品部隊と共に折からの薄明りを衝いて突如石灰窑下流九マイルの資等洲古中洲一帶に果敢なる敵前上陸を決行し

た、我が江上艦隊は陸軍輸送船を從へ月暗き深夜の江上を上陸地點前面へ音もなく遡江すれば各艦一齊に火蓋を切つから後砲火を合圍に海陸のつはものは數十隻

の汽艇に分乗、附近江岸に着いた、この時海軍爆破隊は同洲中央を通つて揚子江に沿ぐ漳源口タリーグ出口に作られた敵の防材壁を瞬時に爆破し江岸に聳立する下津、上津の二山を占領一兵をも損せず破竹の勢ひを以て西方に進撃を開始した、この猛襲に色を失ひ山腹を右往左往する敵大部隊目観け漸く白みかけた朝曉を利用し江上艦艇は一齊に猛撃を浴びせ航空隊もこれに協力壯烈なる曉の殲滅戦を展、したが一方掃海隊も猛進を續け武漢防衛の第二戦たる要衝石灰窑を臨むこと二里の地點に肉薄、同所迄は陸路また餘すところ僅に四里足らずである。南支方面十三日の戦況左の如し。
(一) 海軍陸戰隊は亞鈴灘(ベイアス灘)の西部北岸及び排牙山砲臺(亞鈴灣南岸)に上陸之を占領すると共に敵を掃蕩し野砲並に彈薬多數を捕獲す敵遺棄死體數個、我損害なし

(二) 十三日夕刻我が海軍飛行機偵察に

依れば我が上陸部隊の先頭は淡水の西方

○○キロ附近に達し更に西方に急進撃を

續行中にして敵兵は廣九鐵道沿線各地、
その他内陸方面において右往左往しつゝ
あり、天河、白雲、從化飛行場並に南支
上空敵機を認めず。

(三) 海軍航空部隊は英德以南粵漢線を

攻撃すると共に我陸軍上陸部隊前面の敵

部隊敵陣地に連續果敢なる銃爆撃を實施

し猛烈なる敵砲火を冒し石龍、石馬坪、

雞公嶺等に於て廣九鐵道を爆撃遮断せり

本戰闘に於て我飛行機一機は敵銃火を受

け火災に包まれ敵陣に突入し搭乗員武田

及び小野兩三等航空兵曹は壯烈なる戦死

を遂げたり。

又(一) ベイアス灣方面より上陸せる我

が部隊は昨十三日正午急進して淡水南北

の線に達し續いて西進中なり、上陸は全
然敵の意表に出で疾風迅雷無人の野を行

くが如く前進しつゝあり、我が損害殆ど
無き模様なり。

(二) 我が陸海航空隊の活躍は完全に敵
機の行動を封じ未だ敵機の飛翔するもの
なし

(三) 天氣愈々快晴將兵の士氣益々旺盛
なり

十三日午後一時三十分我が海軍航空隊
は惠州に於て敵戰車三十七臺を認め之を

爆撃壊滅せり。

珠江は十三日夜遂に封鎖され外國軍艦

の他に約十二隻の英船は江上に封じ込め

られることとなつた、十四日朝の香港行
便船に既に乗り込んでゐた乗客は全部下

船を命ぜられた。

十月十五日 駆籠攻撃部隊と並んで蕃山方

面から南進中のわが○○部隊は十五日午

後一時三十分青石橋南方の要衝黃土舖を

完全に占領、象山、南獅嶺の陣地より浴

せかける十字砲火に奪取した、黃土舖は

鄱陽湖、德安間における交通集散の中樞
部である。

一路北進中の我が○○部隊は又も富水
支流の浸水に逢着して足を阻まれてゐた

が十五日拂曉一齊に進撃を開始した、既
に白山岩、王毛尖、石荒山の主要高地を

占據した石本、平田部隊は早曉より山砲

○砲の猛烈なる掩護砲撃の下に果敢なる

攻撃を開始し、石本部隊は各高地を相次
いで奪取し斗龍頂高地を占據、次いで一

舉に浸水地帯に突入し八廟南方高地にて

頑強に抵抗する七、八百名の敵を殲滅、

同陣地を突破して十五日午後四時にク
リーカを渡河して敵の堅壘八廟を占領し

た。

南支作戦の萬全の準備を完了した海陸

兩軍最高指揮官は○○日○○集結地にお

いて歴史的會見を行つた。

海軍陸戦隊は十五日午前八時三十分右

灰窓の關門西梁山を占領した。